

(1) 那覇新港周辺地域 まちづくり方針



位置と地勢

本地域は、本市の北西部に位置しており、国道58号と浦添市との市境、海に囲まれた地域です。浦添市との市境に安謝川が流れるとともに、南東に広がる台地には天久緑地など良好な緑地が残されています。西側は埋め立てによる平坦な土地となっています。

成り立ち

本地域は、天久の台地と埋立によって形成された地域です。戦前は、高橋町（現在の泊3丁目）と真和志村字安謝に居住が見られた以外は、丘陵と海岸で構成されていました。また、高橋町から浦添村勢理客などへ続く街道があり、後に軍道1号（復帰後は国道58号）となりましたが、現在の国道58号のような主要道路というよりは、郊外の道路というものでした。

戦後、牧港住宅地区に土地を接収された天久集落が集団移転するとともに、戦後の復興にともない、軍道1号が中南部を縦断する大動脈として役割を担うようになると、人口増加や市街地の拡大を背景に、軍道1号（国道58号）沿道には、大規模な宿泊施設や共同住宅、業務施設などの建設が進みました。

沖縄経済の復興にともない、那覇港と泊港の港湾取扱貨物量が増大し、既存2港のみでは対応ができなくなったことから、港湾機能の拡大を図ることが急務となり、安謝地先に新港の開発計画が進められました。その後1969（昭和44）年に建設工事が始まり、1971（昭和46）年に現在の新港ふ頭が供用開始することとなります。1972（昭和47）年、新港ふ頭、那覇ふ頭、泊ふ頭の3港を一元化し、那覇港は重要港湾の指定を受けました。1974（昭和49）年には、流通拠点の整備を図るため、新たに浦添ふ頭を組み入れました。

2002（平成14）年、那覇港は本市と沖縄県、浦添市の3自治体で構成する那覇港管理組合へ管理が移管され、新港ふ頭では港湾機能の強化が行われてきました。物流関連施設の集積が進むとともに、2019（令和元）年に那覇港総合物流センターが開業し、旅客船バース（第2クルーズバース）の整備が予定されるなど、本市の物流、人流の拠点として、今後ますます重要な役割を担う地域です。

地域の特 性

① 埋立によって形成されたまちです

本地域の西側に広がる埋立地の大部分は、那覇新港ふ頭地区となっており、主に貨物航路として使用されています。また、ふ頭後背地の碁盤目状の区画には、物流倉庫や海運業関係の事務所などが多く立地しています。臨港道路(港湾1号線)の沿道には、事務所や店舗、共同住宅が建ち並んでいます。



▲ 大正時代と現在の海岸線の比較
「国土地理院地形図（大正8年）」より

② 那覇港の機能強化が進められています

経済成長が著しい東アジアにおける物流の中継拠点として、取扱貨物の増加や、物流の高度化を図るとともに、付加価値型産業の集積を図るため、総合物流センター第1期が供用開始し、第2期、第3期の整備が予定されています。また、今後も増加が見込まれるクルーズ船の就航需要に合わせ、本地域へも大型客船を専用に受け入れるための第2クルーズバースの整備が予定されています。

さらに、これら物流や交流を支え、港湾エリアの交通ネットワークの強化を図るため、那覇北道路などの高規格の道路整備が予定されています。



▲ 物流センター

③ 沖縄県の主要漁港である泊漁港があります

本市は、泊漁港を中心に県内最大の水揚げを誇る水産都市です。特に、市魚であるマグロの水揚げは、県内の半数を占めます。また、泊漁港に隣接して、泊いゆまちがあり、「なはまぐろ」などを買い求めて、市民や観光客でにぎわっています。



▲ マグロのせりの様子

ワークショップなどからの市民のみなさんの声

那覇新港
周辺地域

市民のみなさん



小さな商店とコンビニくらいしかないから、もう少し地域で買い物できる店舗が増えたらうれしいわ。

市役所の人



旧商店街の空き店舗利用やリノベーションが注目されていますね。地域内のすでに商店が集まっている所や旧商店街などを活かして便利なまちにしていきたいですね。



働く車の通行が多い地域だね。将来的には交通の便がよくなるのかねえ？



住宅街の通り抜けが多くて困るな。



安謝の集落は道が狭いので歩道がなくて歩きにくい。気持ちよく歩ける道になってほしいな。

流通や物流を支える広域的な幹線道路の整備が予定されていますね。地域内の道路は安全安心で快適な道路環境をつくっていきたいと考えています。



海拔が低いので、津波が心配。いざという時は高台や高層マンションに避難できるようにしたいね。



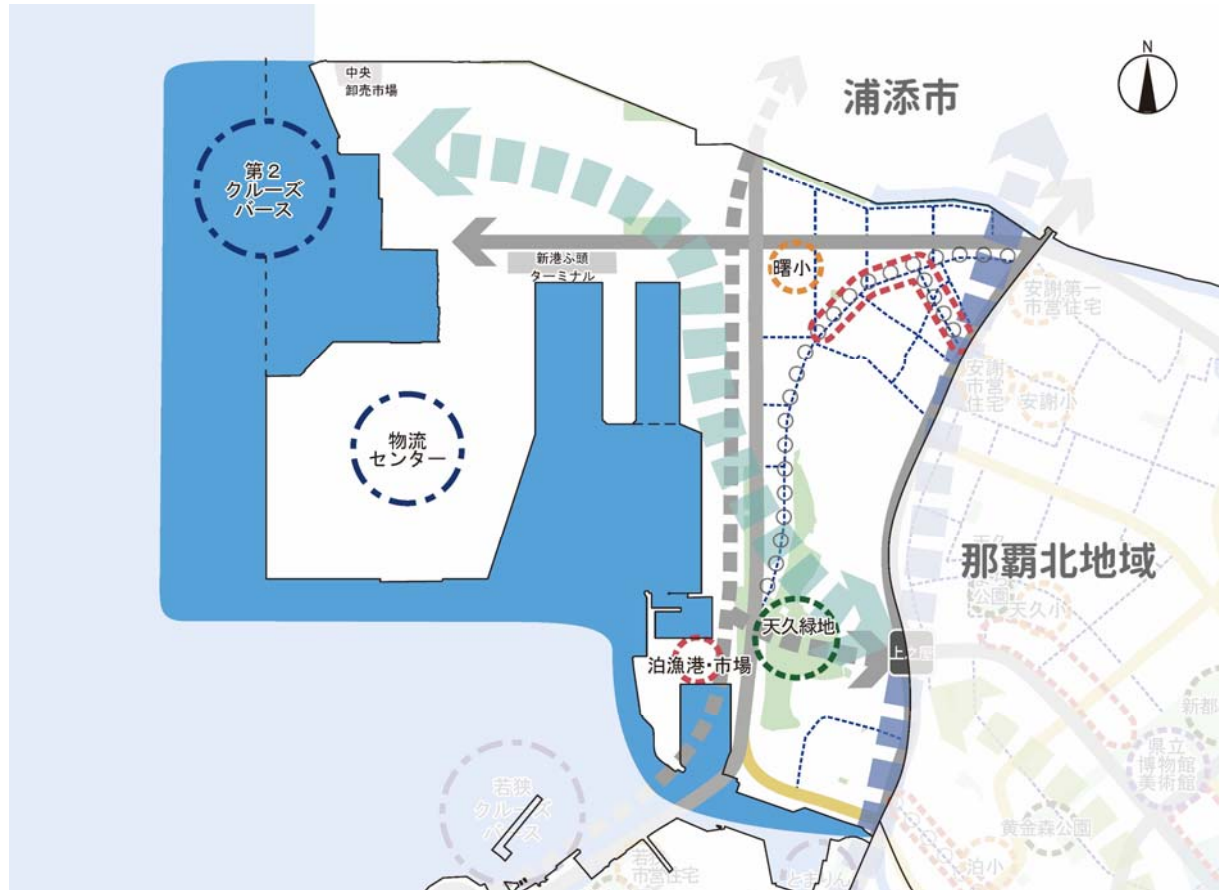
住宅が密集している所は、火災の危険性もあるね。大丈夫かなあ？

津波や高潮などの災害時の対策も進めていかないといけないですね。密集した地域は、生活道路の改善により基盤の修復を進めて安全安心なまちにしたいですね。



地域の将来像

新港ふ頭の周辺は、国際的な物流機能の形成に向けて、港湾機能を活かした流通関係の産業集積と新たな大型旅客船バース（第2クルーズバース）を中心とした魅力的なゲート空間の創出を図ります。また、小学校区を中心としたコミュニティづくりにより、一体感のある暮らしのエリアの安全で快適な生活環境の形成を進めます。市の中心部や隣接する那覇新都心地区などの市街地と、緑あふれる天久の台地や魅力的な水辺の空間を有機的に結びながら、活気のあるウォーターフロントのまちづくりを推進します。



公共交通・道路



交流スポット



その他



※凡例は各地域共通

地域の土地利用の方針

- 字安謝、字天久などの良好な低中層住宅地の形成
- ウォーターフロントの環境を活かした中高層住宅地の形成
- 安謝市場通りなどの地域の生活利便性を高めるマチグー商店街の形成
- 沖縄県の物流・流通業務の拠点の形成
- 泊ふ頭の都市型リゾート地区と連携した土地利用の推進

低中層住宅地区

曙 1・2 丁目、字安謝、字天久は、低層の戸建て住宅と調和した低中層の共同住宅が共存する良好な住宅地の形成を進めます。

中高層住宅地区

曙 3 丁目、字天久、字上之屋、泊 3 丁目は、土地の有効利用を図りつつ居住環境に配慮した中高層住宅を中心とした土地利用を進めます。

地域型生活サービス地区

安謝市場通りなどは、日常の生活を支える店舗などが立地する土地利用を図ります。

都市型リゾート地区

泊ふ頭北岸周辺は、海の玄関口である「とまりん」や「船客待合所」などのヒトの流れを引きつける魅力的で多様な機能を持った土地利用を図ります。

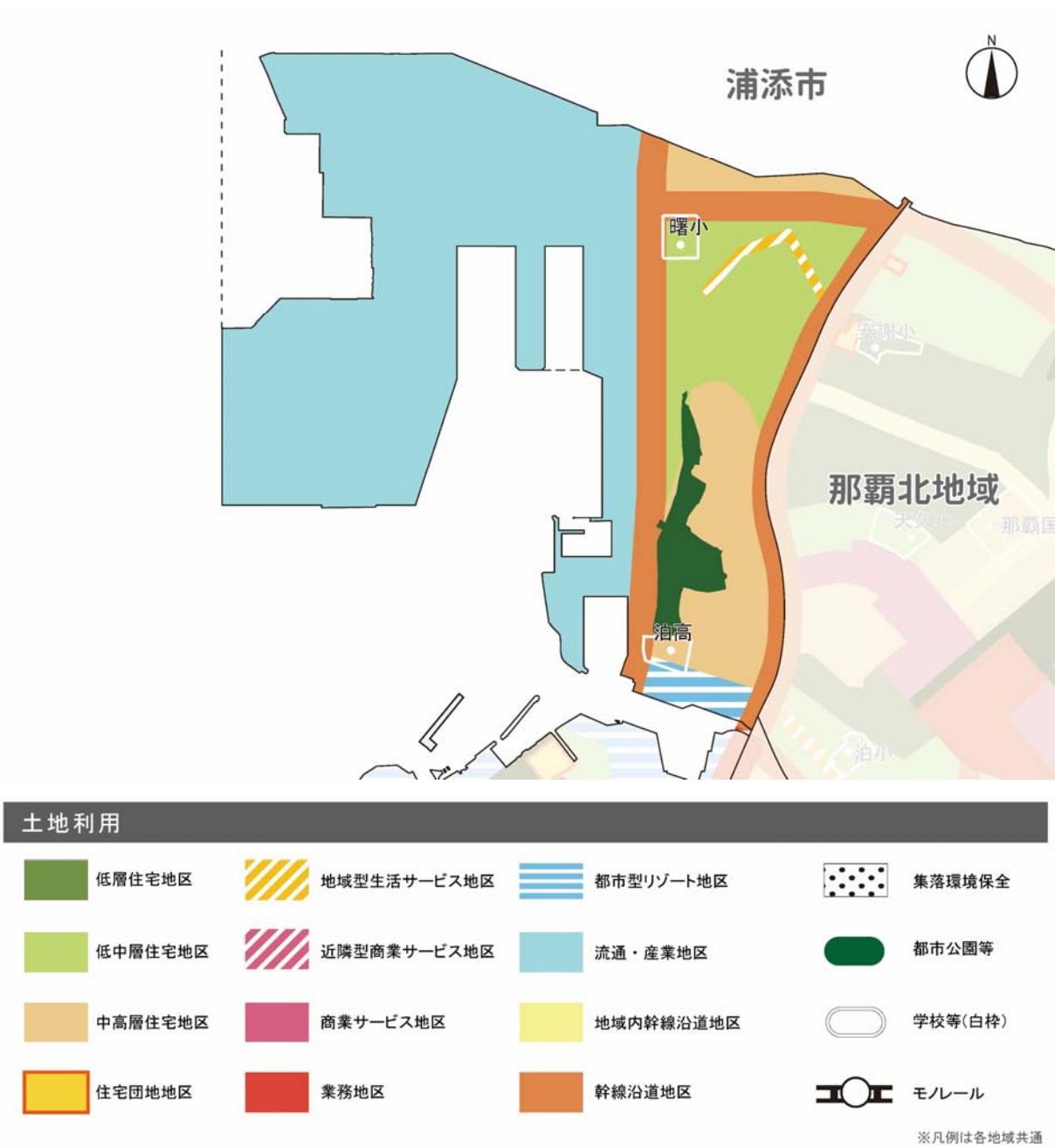
流通・産業地区

国際的な物流の拠点としての物流関連施設の集積や、新たな玄関口である第 2 クルーズバースの交流機能の魅力を高める産業が立地する土地利用を図ります。また、水産業の拠点としての環境整備を進めます。

幹線沿道地区

国道 58 号沿道や臨港道路（港湾 1 号線）沿道は、低層部の住宅利用が抑制された沿道型の商業施設や業務施設、中高層の共同住宅などが立地する土地利用を進めます。

地域の土地利用方針図



地域の交通体系の方針

- 物流や交流を支える西海岸道路など広域的な幹線道路の整備
- 住宅地内における安全安心で快適な交通環境の創出
- 地域の顔となる道路空間の形成
- 交通結節点を中心とした公共交通、歩行者、自転車利用環境の整備
- 第2クルーズバスと各拠点との交通軸の形成
- 鉄軌道を含む新たな公共交通システム導入との連携

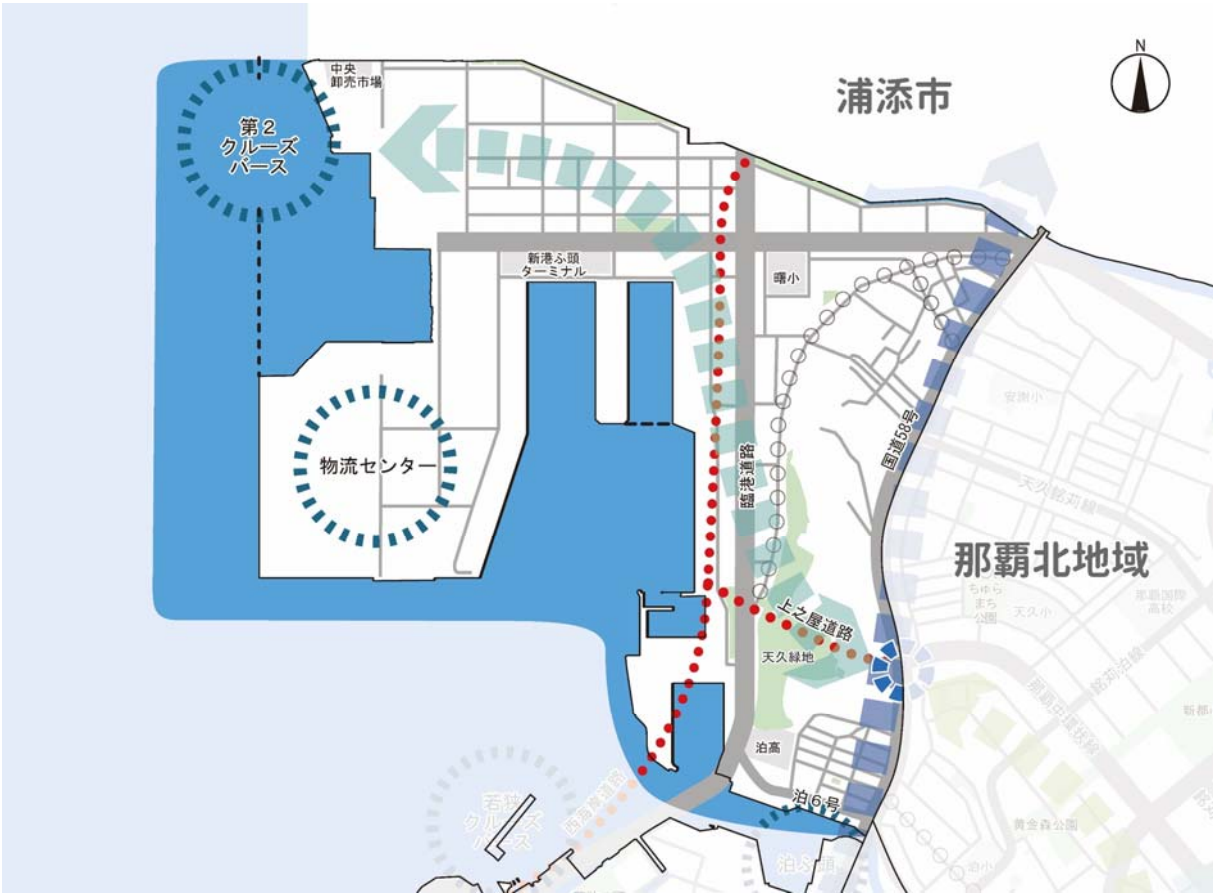
■誰もが移動しやすい公共交通ネットワークの体系方針

本地域内はバス路線が少なく、公共交通の利便性向上が求められています。新港ふ頭地区においては第2クルーズバスの整備が予定されており、観光客の移動を支える公共交通が不足すると想定されるため、第2クルーズバスと市内主要観光施設や拠点とを結ぶ公共交通軸の形成を図ります。

■路線ごとの道路体系方針

	路線名および路線位置	体 系 方 針
広域的な幹線道路	・ 西海岸道路（那覇北道路） ・ 国道 58 号 ・ 臨港道路（港湾 1 号線） ・ 上之屋道路	西海岸道路の整備により交通流動を分散させ、ボトルネック交差点の改良整備に取り組むとともに、自動車交通の負荷が軽減される道路は、公共交通、自転車、歩行者など、人中心のための道路空間へと再配分することを促進します。 西海岸の主要な拠点を連結し、都市構造を形成する重要路線である西海岸道路や上之屋道路を幹線道路として位置づけ、周辺環境に配慮した広域幹線道路の形成を促進します。
地域の幹線道路	・ 泊ふ頭北側における臨港道路と国道 58 号を結ぶ道路（泊 6 号）	泊ふ頭北側に位置し、臨港道路と国道 58 号を結ぶ道路を地域幹線道路として位置づけ、海辺へのアクセスとなるアメニティの高い泊ふ頭プロムナードの整備を推進します。
主要な生活サービス道路	・ 安謝小学校北側線	地域のマチグワ－商店街としての機能が期待されていることから、車両通行を抑制し、歩行者の安全性を重視した道路整備を図ります。
	・ 曙 9 号	曙小学校の周辺道路は、魅力ある歩行空間を確保し、安全安心な道路整備を図ります。
	・ 安謝 1、4 号 ・ 天久安謝東線 ・ 曙 18、21 号 ・ 曙中央線 など	地区の中心的な道路となっており、主要な生活サービス道路として位置づけ、地区の住環境に配慮した安全安心な道路整備を図ります。
	・ 臨港道路から安謝天久線	安謝、天久地区の顔となる道路であると同時に、周辺にアメニティ要素となる歴史・文化遺産や天久緑地が存在しており、これらを活用した歩行者優先道路としての整備を図ります。

地域の交通体系方針図



安全安心な地域形成の方針

- 字上之屋、曙における良好な街並みの誘導
- 字安謝、字天久などにおける生活道路の改良の推進

基盤整備済地区

地区計画制度を活用している泊地区は、地区計画の目標や整備方針にあわせた適正な市街地の形成を進めます。また、曙、字上之屋などの住宅地は、地区計画や建築協定、緑化協定などにより、建物用途の混在抑制や緑化推進、街並み景観の形成などの良好な居住環境の維持・向上を図ります。

新港ふ頭周辺の埋立地は、市民に親しまれる港空間の創出を図るため、建築物の緑化や形態意匠を整えることにより、良好な街並みの創出を図ります。

基盤改善地区(機能向上型)

字安謝や字天久の住宅地は、狭隘道路の解消やネットワークを構成する主要な生活サービス道路の改良などにより基盤の改善を図ります。

防災まちづくり

高潮・津波の浸水リスクのある港町や曙、土砂災害リスクのある天久などでは、災害リスクおよび被害軽減に向けた意識啓発を進めます。地域の西側は、海拔の低い地域が広がり、高潮や津波による浸水予測地域となっているため、津波に強い構造や浸水を逃れる階数・階高の確保など、被災後も居住機能を維持できる建築物についての情報発信を図ります。また、事業者などの協力による、高潮・津波の襲来時に緊急一時的に避難できる施設の確保を図ります。

避難場所・避難所・樋川・井泉

地域の湧水は、災害時に上水道が使えなくなった場合の飲料以外の生活に必要な水を確保するため、状況把握や保全などの取り組みを進めます。また、高台にある天久緑地は、周辺のアクセスの向上も含め、早期整備を図ります。

安全安心な地域形成方針図



暮らしと交流の方針

- 安謝川、坂中樋川、港湾などの水辺のプロムナードの整備
- 住宅地における身近な広場の確保
- 天久緑地からの眺望景観の確保
- 新たな交流拠点を中心とした魅力的なゲート空間の形成

公園・広場・緑・水辺

天久緑地は、良好な自然緑地を形成しており、アプローチ路の改善も含めた地域のうるおいの場の創出を進めます。また、身近な公園が少ない地域では、空地などを活用した小公園や広場、ポケットパークなどによる憩いの空間の創出を図ります。

安謝川や港湾などは水辺の軸として、水質浄化とあわせた自然化・親水化や緑化を進め、生物にやさしく、訪れる人が水辺を身近に感じることのできる親水プロムナードの創出を促進します。また、豊かな湧き水によって育まれた坂中樋川^{ヒージャ}などの地域に残る水辺空間は、都市における貴重な自然環境として水源を維持するため、水辺周辺の緑地の保全を促進します。

幹線道路や主要な生活サービス道路などは積極的に緑化を進め、水辺と緑をつなぐ市街地の緑の軸として、生物の移動空間のネットワーク化やうるおいのある歩行空間の創出を図ります。

景観・眺望

海辺や港などの水際線は、隣接するとまりん地区などと一体となり、夕陽が美しく映え、魅力を感じるウォーターフロントの景観形成を図ります。また、天久緑地では、港と海などが望める眺望点の確保や視対象である港湾エリア^{ヒージャ}の景観形成を図ります。

都市景観への影響が大きい大規模建築物や臨港道路（港湾1号線）、整備が予定されている那覇北道路、那覇インターアクセス道路などは、周辺に残る緑地への配慮や背景となる海と空との調和などのデザイン誘導を図り、模範となる景観形成を図ります。

安謝市場通りや安謝天久線は、街路樹による連続した緑陰の創出や特色ある整備を図り、屋外広告物や公共サインのデザイン誘導などにより、地域の顔となる景観形成を図ります。

国内外からの玄関口である港は、人々を迎え入れる機能的な施設整備を促進するとともに、訪れる人々の心に残る印象的な建築物や空間整備による魅力的な景観形成を図ります。

歴史・文化遺産・歴史の散策路

泊外人墓地などの指定文化財や、黄金ウタキ、坂中樋川^{ヒージャ}などの地域に残る歴史・文化遺産は、まちづくりの要素として保全・活用を進め、歴史の散策路と一体となった歴史・文化とふれあう場の創出を図ります。また、景観資源として指定されている安謝川沿いのユーナ並木や新屋敷公園のガジュマル群など、地域に残る古木や大木は、市街地にうるおいを与えると同時に、地域の歴史を継承する貴重な資源として積極的に保全を図ります。

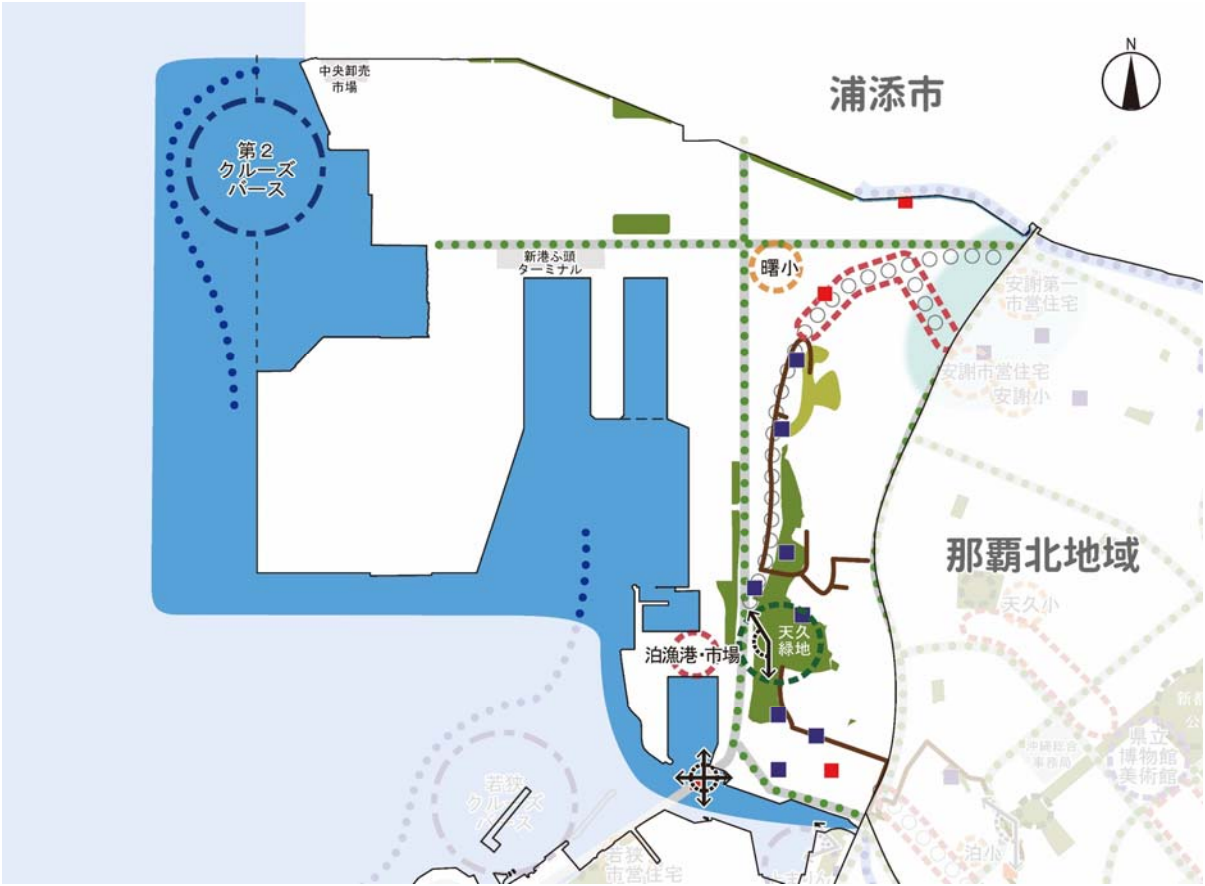
交流スポット

整備が予定されている第2クルーズバースは、多くの観光客が訪れる新たな玄関口となるため、周辺の土地利用の誘導や景観形成、緑陰の創出などにより、魅力的な交流スポットの形成を図ります。

泊漁港は県内有数のマグロの水揚げを誇る水産業の拠点として、漁港・漁業施設の整備などを推進し、隣接する市場と連携した市民や観光客が訪れる広域的な商業機能を有する交流スポットとして、環境整備を図ります。また、安謝市場通りなどは、徒歩圏の生活サービス機能を有する交流スポットとして、空き店舗の様々な利用により、身近な買い物や地域のサードプレイスとしての機能の創出を図ります。

小学校はコミュニティの拠点として積極的に開放を進めます。また、公共施設のリニューアルなどの際には、交流スポットとして利用しやすい機能配置や施設整備を図ります。

暮らしと交流方針図



緑・水辺	歴史・景観	交流スポット
公園・緑地	歴史・文化遺産 (馬場道跡などの場合)	歴史文化 スポット
自然緑地	集落景観	自然・ レクリエーション スポット
緑の軸	都市景観形成地域	コミュニティ スポット
水辺の軸 (河川・海)	景観資源	商業交流 スポット ・広域的な商業機能 ・駅周辺の商業機能 ・徒歩圏の生活サービス機能
公園空白地域	シンボルロード	交通交流 スポット
	地域の顔となる道路	
	歴史の散策路	
	眺望	

※凡例は各地域共通